

■尚泰久(王) 琉球国王。琉球第一尚氏6代。思わぬことから王位に就き、仏教興隆を図り、“万国津梁の鐘”を铸造。

しょうたいきゅう

・ ・ ・ ・ ・ 1410＝ 第一尚氏王統を樹立して間もない尚巴志の四男に生まれる。

越来の領主に任じられて、越来王子と称される。

上杉禅秀の乱1416＝ 6歳：この年、父尚巴志が北山王肇安知を攻め滅ぼす。

応永の外寇・1419＝ 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1421＝49歳：この年、父尚巴志が王位につき、その前後に首里は恒久的王城と化す。

義教籤引將軍1428＝18歳：

播磨国一揆・1429＝19歳：この年、父尚巴志が南山の他魯毎を討って、琉球全島の統一に成功する。

尚氏王統確立1430＝20歳：この年、中国の使者柴山が大安寺を建立、

・ ・ ・ ・ ・ 1433＝23歳：この年、中国の使者柴山が千仏霊閣を建立、

・ ・ ・ ・ ・ 1437＝27歳：

永享の乱終・1439＝29歳：父尚巴志が死去すると、

結城合戦・ ・ 1440＝30歳：長兄尚忠が中山王に即位するも、

嘉吉の乱・ ・ 1441＝31歳：將軍足利義教が薩摩の島津忠国に琉球を賜うと伝えられ、

・ ・ ・ ・ ・ 1445＝35歳：長兄の子の4代尚思達王に替わると、

・ ・ ・ ・ ・ 1446＝36歳：

足利義政將軍1449＝39歳：管領失脚した細川勝元が琉球使船の商品を押留するなど、日本に翻弄されるなか、民政安定を図るべく、

・ ・ ・ ・ ・ 1450＝40歳：次兄が5代尚金福王として即位した年、京都から来た臨濟宗の僧芥隱を厚遇、

大和徳政一揆1451＝41歳：国相懷機が長寿寺を建立。

・ ・ ・ ・ ・ 1453＝43歳：使臣と日本僧道安を朝鮮に遣わし、端宗に乞うて大蔵經を沖縄に齎す。尚金福王が死去すると、三兄布里と尚金福王の子志魯が王位継承を巡って<布里の乱>となり、共倒れになるとともに、首里城も焼けた後、
古河公方始・1454＝44歳：*国人の評議によって推戴され、即位して中山王となると、その弘法のため、次々と寺院を建立、巨大な鐘を铸造して掛けさせるなど、仏教の興隆を一気に進める。

古河公方始・1455＝45歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1456＝46歳：マラッカと通交。

・ ・ ・ ・ ・ 1458＝48歳：*万国津梁の鐘を首里城正殿に掛ける。なお政権が不安定で、妻の父護佐丸を自殺に追い込んだ姉<阿麻和利の乱>があるが、神社を建てて神道興隆にも意を用い、のちに第二尚氏王統を開く金丸(尚円)を拔擢して民政安定に努め、

・ ・ ・ ・ ・ 1460＝50歳：没した。